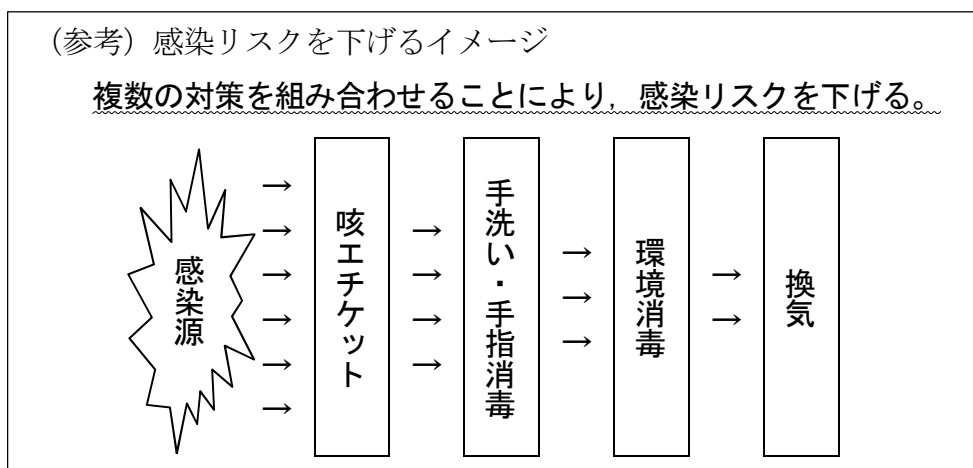


子どもが集団で過ごす施設や集団で活動する場所における 新型コロナウイルス感染症の予防について（予防のポイント）

1 基本的な予防

- 新型コロナウイルス感染症は、主に「飛沫感染」と「接触感染」により感染すると考えられています。施設等における感染症対策としても、この点に留意してください。
- 新型コロナウイルス感染症などの感染症は、①感染源、②感染経路、③感受性（免疫が十分でなく体に入った細菌やウイルスが増殖する）、という3つの要件が全てそろって感染が成立します。現時点ではワクチンや特効薬がないので、**「感染者を隔離すること」と、「感染経路を遮断すること」が大事**です。
- 施設等においては、発熱や風邪等の症状がある子どもや職員の利用等を控えていただくことで、万が一その人が感染していた場合に、感染源と接触するリスクを減らすことができます。また、感染経路の遮断に当たっては、以下のとおり、**複数の対策を組み合わせることが大切**です。



- ※ **咳エチケット、手洗い・手指消毒、換気のポイントは、別紙1を参照**してください（「新型コロナウイルス感染症 ～市民向け感染予防ハンドブック」（東北医科薬科大学病院）から抜粋したものです。）。

2 施設等における予防の留意点

- 子どもが集団で過ごす施設や集団で活動する場所については、子ども同士や職員との距離が近く、日頃から会話、集団遊び、スポーツや歌唱などを行っていることから、いわゆる「3密」（密閉・密集・密接）を避けにくい環境であり、子どもが自ら適切な咳エチケットや手洗い等を実施することも、なかなか難しいと考えられます。
- このため、上記の基本的な予防の実施について、**施設等での活動の各場面における留意点をまとめました**ので、施設・設備の状況や、利用者の人数・特性等も踏まえ、**各施設等における感染症予防対策の実施に当たり、御活用ください**。

- ※ 保育園等における感染症予防対策については、「保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）（厚生労働省）」等も参照してください。

次のページへ続きます

(1) 基本的なこと

- ・ 基本的には、どのような場面でも、①ウイルスを含む飛沫が目、鼻、口の粘膜に付着するのを防ぐこと、②ウイルスが付着した手で目、鼻、口の粘膜と接触するのを防ぐことの2点が、対策のポイントです。
- ・ 子どもの年齢に応じて、マスク着用等の咳エチケットや手洗い（流水と石けんによる。以下同じ）について指導しましょう。
- ・ 公益社団法人日本小児科医会からは、2歳未満の子どもにマスクは不要、むしろ危険であるとの見解が示されていますので、御留意ください。（別紙2参照）
- ・ 咳やくしゃみ、鼻をかんだ時には、手洗いを行きましょう。
- ・ 子どもは無意識に顔を触っていることも多いと思います。ウイルスは目に見えませんが、普段から子どもに対して「洗う前の手には、ばい菌がついている」ことを、年齢に応じたわかりやすい表現で伝える等し、手洗い前に顔を触らないよう指導していただくことも大切です。

(2) 登園・通所

- ・ 子ども・職員ともに、登園・通所前及び出勤前の検温など健康管理を行い、発熱や風邪等の症状がある場合や、解熱後24時間以上が経過し、呼吸器症状等が改善傾向となるまで登園等を控えることを徹底することで、感染源となる可能性のあるものと接触するリスクをできる限り減らすことが大切です。
- ・ 室内に入る前には、手洗いや手指消毒（以下、「手洗い等」といいます。）を行きましょう。
- ・ 可能であれば、登園等の時間を分散させることも、人の密集を避けるためには有効です。
- ・ 送迎バス車内では、咳エチケットや換気などを徹底しましょう。

(3) 屋内遊び

- ・ できるだけ多く換気を行きましょう。
 - ・ 粘土やおもちゃで遊んだ後や、手が汚れたときは、手洗い等を行きましょう。
 - ・ 職員も子どもも咳エチケットを徹底しましょう。子どもで、マスクがないときやマスクの着用が難しく、活動中に咳・鼻水などが出てきた場合は、可能な範囲で、ティッシュペーパー等で鼻や口をカバーするといった対応も実施しましょう。
 - ・ 室内は日々の清掃で汚れを落として清潔に保ち、よく触れるような机、ドアノブ、手すり、照明のスイッチ、おもちゃ等は、アルコール等による消毒を行きましょう。
- ※ 次亜塩素酸ナトリウム水溶液で金属部分を消毒した場合、その箇所が錆びるおそれがありますので、消毒後は水拭きしましょう。

(4) 屋外遊び（運動・スポーツなど）

- ・ 屋外遊びの前後には、手洗い等を行きましょう。
- ・ 基本的に、運動・スポーツを行う上でも、マスクの着用など咳エチケットを実施することは感染の予防に有効です。
- ・ 一方で、運動を行う際のマスク着用により、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクが指摘されています。このようなリスクを考慮して、学校の体育の授業でのマスクの着用は必要ないことが示されましたが、あわせて、児童生徒の間隔を2m以上確保し、不必要な会話や発声を行わないよう指導する等の対策を講じる必要があることも示されています（軽度な運動の場合や、児童生徒がマスクの着用を希望する場合は、マスクの着用を否定するものではありません。）。

- ・ 以上を踏まえて、屋外遊びにおいて子どもがマスクを着用する場合は、子どもの年齢や活動の内容等を考慮して、子どもの身体に負担がかからないよう、配慮するようにならしてください。

※ 運動時にマスクを着用する場合は、家庭用マスクを着用するよう注意しましょう（外気を取り込みにくいN95マスクなど医療用や産業用マスクの着用は避けましょう。）。

- ・ 用具や遊具を使う場合は、できるだけ消毒してから使うようにしましょう。
- ・ 可能であれば、子どもの年齢・クラス等によって屋外遊びを行う時間を分けるなどの対応も、人の密集を避けるためには有効です。

(5) 食事・おやつ

- ・ 食事の前後には、手洗い等を行いましょ。
- ・ テーブルは、食事前に清潔な台布巾で水（湯）拭きしましょう。アルコール等で消毒する場合は、拭いた後に十分に乾燥させてから使用しましょう。
- ・ スプーンやコップ等の食器は共用しないようにしましょう。
- ・ 使用後の食器等については、「大量調理施設衛生管理マニュアル（厚生労働省）」に沿って、洗浄、加熱、殺菌、乾燥を行うなど、衛生管理を徹底しましょう。
- ・ 児童が、他の児童の食器に触れないように注意しましょう。
- ・ 子どもが対面にならないように配席することも有効です（学校給食では、机を向かい合わせにしない、会話を控えるなどの対応が例示されています。）。
- ・ 一方で、保育園等での乳幼児の食事については、友達や保育士と「一緒に食べる方が美味しい」と感じるような体験を積み重ねることや、気持ちを共感しあう、食べ物のお話をしながら、楽しく食べる習慣を育てることが望ましいとされています。
- ・ これらを踏まえ、食事の際には、少人数グループで時間差を設ける、子ども同士の距離をできるだけ確保する等の感染対策をした上で、楽しく食べる習慣を育てていきましょう。
- ・ 子どもの年齢に応じて、「食事中は大きな声を出さない」等の食事のマナーを子どもに指導しましょう。
- ・ 複数の子どもを同時に介助する際は、保育士が感染の媒介とならないよう注意しましょう（子どもの鼻をかむ時、泣いている子どもをあやす時など特に注意が必要です。）。
- ・ 食後には、テーブル、椅子、床等の食べこぼしを清掃しましょう。
- ・ はみがき指導を行っている場合は、歯ブラシやコップの衛生的な管理に十分配慮しましょう。

※ 食事・おやつ提供時のポイントは別紙3参照

- 「できるだけ感染のリスクを下げていく」という考え方に基づき、各施設等の実情も踏まえて、職員や関係者で協議等していただいたうえ、1つ1つの対策を最大限に実施しましょう。
- 新型コロナウイルス感染症対策とともに、プールの安全対策、熱中症対策等についても十分な対策を実施しましょう。